



国際ロータリー第2590地区 川崎百合丘ロータリークラブ

Weekly Report

2014～2015年度

■ 会長 井上 勇 ■ 幹事 井上 久 ■ 会報 中村 和広

平成27年4月21日(火) 第1763回例会



作者の言葉
我々の会は、ロータリーの精神を以て、社会に貢献することを使命とし、多岐にわたる活動を通じて、地域社会の発展に貢献することを目的としています。今年度は、この使命を達成するために、様々な取り組みを行っています。皆様のご協力により、多くの成果を上げています。引き続き、皆様のご支援をいただき、より良い会にしていきたいと考えています。平成27年春 中村和広

例会日 毎週火曜日 12:30～13:30
例会会場 ホテルモリノ7F TEL 044-966-1300

川崎百合丘ロータリークラブ ホームページ
<http://www.kawasaki-yurigaoka-rc.jp/>

第1763回例会記録 平成27年4月21日(火) 38/46回

<点鐘> 井上勇会長 5/5(火)祭日休会

<ソング> 我等の生業

<お客様ご紹介> 井上勇会長

麻生警察署長 三鬼洋二様
相模原橋本RC 坂井規久子様

<ニコニコ委員会> 赤本委員長

相模原橋本RC 坂井規久子様→「いつも楽しく参加させていただきありがとうございます」。当クラブより、井上勇会長→「三鬼麻生警察署長様、卓話よろしくお願いたします」。井上久幹事→「麻生警察署長様、本日の卓話よろしくお願いたします」。安藤美恵子会員→「主人の命日にお花を頂きました。ありがとうございます。中島眞一さんのご好意でOPA 1Fにて川崎洋蘭クラブの春の蘭展を行っています。お時間ある方は、どうぞご覧ください」。結城会員→「稲生RCの最終例会に出席してきました」。木庭会員→「2月に、主人に素敵なお花をいただきました。以下、感謝をこめてニコニコへ。安藤亨会員、安藤志子会員、福家会員、石坂会員、鴨志田会員、北島会員、小島会員、小塚会員、中島健児会員、中島眞一会員、大矢会員、親松会員、嶋会員、鈴木文夫会員、鈴木清会員、玉井会員、寺川会員、鶴飼会員、碓井会員、渡邊会員、赤本会員。

<会長報告> 井上勇会長

1. クラブ戦略計画セミナー開催の案内
5/19(火)15:00～17:00 メモワールプラザソシア21
2. エコキャップ推進運動についてのお問合せ
3. 2015～16年度「会員増強目標」「R財団寄付目標」の入力手続きについて
4. 第1・2・3グループIM報告書(DVD)の送付について
5. 第2510地区より日本ロータリー親睦ゴルフ北海道大会の案内
6/22(月)7:00～
6. 麻生警察署長歓送迎会の案内
5/18(月)18:00～ ホテルモリノ新百合丘7F
7. 川崎市文化賞候補者の推薦について(依頼)
8. 川崎・しんゆり芸術祭(アルテリッカしんゆり)
2015実行委員会より報告

<出席委員会> 山口委員長

	会員	出席	欠席	マーク	出席率
第1763回	40	29	11		72.5%
第1762回	40	32	8	2	85%

<幹事報告> 井上久幹事

- * 例会変更・案内 川崎麻生RC 神奈川RC
- * 会報着 新川崎RC
- * その他
- ・ 当クラブ例会予定
4/28(火)定款細則により休会
4/29(水)さつきを観る会 11:00～白井邸

<ロータリー財団> 大矢委員

石坂会員よりいただきました。

- 第1765回 5月19日 奥様感謝デー
- 第1766回 5月26日 会員卓話
- 第1767回 6月2日 委員会報告

※諸事情により、スケジュールは変更になる場合があります。

<ニコニコ・財団・米山委員会>

	今回		累計	
ニコニコ	27件	27,000円	1,027件	1,120,330円
財団	1件	14,160円	26件	340,040円
ベネファクター	0件	0円	2件	204,000円
米山	0件	0円	50件	673,000円

本日のプログラム

<招聘卓話>

麻生警察署長 三鬼洋二様

前任は神奈川県警本部の刑事部の刑事指導官室長として警察署からの刑事法令の解釈・運用や刑事警察官の教養を中心にやっておりました。その前は捜査一課の課長代理でした。課長代理というのは警察署で言うと副署長にあたります。副署長は報道対応の窓口であり広報官とも言われます。本日は各方面でのリーダーである皆様へのお話ということで、捜査一課の課長代理当時に感じたことをお話させていただきます。

捜査一課は殺人や強盗を扱う部署ですので注目を浴びることの多いところです。そこでの課長代理の毎日は朝5時半に出勤し、7時に到着してから凶悪事件を扱っていましたが、県内の捜査本部の進捗情報や前日の事件の報告等をしていると大体の時間になります。出勤前には自宅前に3、4社の報道関係者がいました。そこで対応しても駅までの道にも待ち伏せをしている記者がいたりもします。加盟の記者クラブで11社20名ほどを前に、午前11時と午後4時の2回記者レポを開きます。一日の途中で事件が飛び込んでくるとその都度開きます。夜の9時くらいまでは報告を受けながら方向性を話し合ったりします。そこから帰宅すると記者が駅に待っていたり、立ち寄りのお店でも待ち構えていたりします。ドラマでは「ノーコメント」とよくやっていますが、実際は可能な限り誠実に対応します。彼らは基本的には市民の代表者、善良な市民からの質問に対してノーコメントと言うのはありません。それでも、彼らにとってニュースは商品であって、瓦版の世界だなど感じることは多々あります。思い込みの間違った記事によって事件関係者の名誉やプライバシーを大きく傷つけたり、捜査への支障があったりしますので、違うものは違うと根拠を示して説明しました。この点にはとても気を使いました。中には真実を付いてくるものもありますが、それをすんなりと聞き入れる訳にはいきません。それは犯人に逃げられたり、証拠隠滅を図られたりするからです。また報道によって周知の事実になってしまうと犯人の口から語られたときの証拠の価値が下がってしまうからです。話せることを話す、話せないことはなぜ話

せないかの説明、いつなら話せるかを聞かせて納得させる必要があると思います。記者クラブは決まっています、人間関係も出来上がっている程度頼みも聞いてくれる事も多いのです。しかし、大事件になると本社から友軍といわれるフリーライターが来ます。彼らは、無責任な記事を書いたり報道したりすることがあります。ミスリードから報道合戦になり、関係者の尊厳を著しく傷つけることになりやすいので、工夫していました。

事件記事の見出しが「捜査幹部によると…」であれば捜査に関わっている警察関係者で課長代理以上の人間で信頼できるソースの話、「捜査関係者によると…」だと広報対応に当たることが許されていない人間の裏づけ不十分な話を拾ってきて書いているものと思って記事を見てもらえればいいかと思います。大きな事件がおきて取材が過熱する場合、心に留めていたのは予め紙面のスペースを考えて記者が埋められるように話をする、話していいことは話すようにしておりました。記者の中には斜めから切り込んで書こうとするものもいましたが、大方うまくいきました。事件規模、捜査進捗、報道各社取り組み状況が、どこまで話せるかを見極める上で大切な点です。

伊勢原事案をご存知でしょうか。事件そのものは捜査一課が担当しましたが、生活安全課女性から相談を受けていました。担当係員に話を聞いたところ初めは女性に電話をしたと話していました。これを裏づけせずにリリースし、後日電話をしていなかったことがわかり、報道から警察組織が身内の不始末の隠蔽をしようとしたのではないかという論調で書きたてました。発表する以上は正確なこと、間違えないことを言う必要があるのです。発表が二転三転すれば非常にリスクと元に戻す労力を要します。それも知った上でマスコミ対応はするべきです。組織の評価の大部分は望んでのことではなくメディアが作り出しています。それによって致命的な傷を負ったり正当な評価をされなくなったりします。よってマスコミ対応は国民市民に対して話しているのだと姿勢を持ちつつ、怖いものなのだとしっかり実感しながら正確なことを伝えることによってコントロールすればダメージコントロールができるのだと思います。私の経験からのお話ですが、ご参考になればと思います。

